

情報生産の場”情場 “コンセプト「異次元の近未来型地方創生」案（改訂）

2014・11-16 KAJIWARA

～農業社会の農場、工業社会の工場に相当する情報社会（情報産業社会）の情報生産現場“情場”構想のスケルトンを提示、関係者の協力を得て国内・国外の実例を集め、逐次、肉付けをしていく～

「いつの時代でも、生産力が地域繁栄の基となる。農業社会では農業生産、工業社会では工業生産、情報社会では情報生産、それぞれの生産規模と生産効率が地域の盛衰を決める。いかにして優れた生産現場をつくるか、それが課題となる。地域も国も、知的生産力を有する人材の養成、その適正配置と環境整備が必要である。それがあって始めて地域創成、そして経済成長が可能となる。

日本経済の停滞や地域の衰亡は、情報化やグローバル化への対応が遅れ、生産性が米国の半分程度に低落したことが最大の構造的要因。特に知的生産力が伸び悩み、近未来思考では、知的生産性の向上が国も地域も共通最大の課題である。特に、地方が東京を越え海外と直結する、あるいは外国人と交流を深め、異文化を肌で感じる事が不可欠である。生産性が上がれば、日本には世界に起こる「信頼性」という貴重な無形資産がある。海外で競う強力な武器となる。」

1 生産の現場は時代とともに変わる。

- (1) 農業社会 農場 農産物 生産財 土地、労力（人間・牛馬） 自然の利益（ネイチャー・メリット） 代表的社会資本 河川 治水・利水
- (2) 工業社会 工場 工業製品 生産財 施設・設備、動力機関、労働力（筋肉労働・肉体労働） 規模の利益（スケール・メリット） 代表的社会資本 骨格・筋肉系 道路 原材料・製品の搬入・搬出
- (3) 情報社会 農場、工場 情報価値を加える情場の性格を合わせ持つ。情場 情報の生産現場 情報（知的価値）（アイデア、発見、発明、カイゼン、イノベーション） 生産の場（フィールド） ソフト、ハード、システム 生産財 人間（頭脳） 多様性の利益（ダイバーシティ・メリット） 代表的社会資本 頭脳・神経系 都市・インターネット リアル・ネット交流の場 情報の受信、蓄積、創造、発信（生産、加工、販売） 情報が集る交流結節点（シナプス）が都市の要となる。

2 情報生産のメカニズム＝人や情報の交流（出会い、ふれ合い、語り合い）

異質（ヘテロジニアス）の交流から情報は生産される。同質（ホモジニアス）の交流では情報間の化学反応が起きない。A 情報+A 情報=2A 情報 一種の細胞分裂・無性生殖 進化・発展に劣る。

情報の生産= (A 情報×B 情報) =C 情報 (新たな情報) 一種の有性生殖 進化・発展性が高い。

その生産性を上げる要素 知的生産性要素=D+I+S

D=人材・情報の多様性と交流の頻度 (ダイバーシティ)

I=情報技術、情報通信技術の装備と活用 (IT・ICT)

S=知的創造を奨励する風土 士気と環境(精神的土壌) (Spiritual Climate)

士気(家庭、企業、地域、国の指向するベクトル「方向性と強さ」) (目標・情報の共有) (前向き) (加点主義) (失敗は成功の基)

環境 (自由、ゆとり、自然、運動) (「快脳」でこそ活動) (頭脳活動は筋肉労働と異なり強制できない)

情場は、ハード、ソフト、システムを含む総合的リアル・バーチャル交流の場 (物理学でいうフィールド)。農場や工場よりも複雑なので、統一コンセプトが確立していない。目で見える情場をつくり啓発する必要あり。

日本は、島国、しかも同質社会で、タテ系列が強い。中国の華僑、インドの印僑のような海外ネットもない。在外韓国人のような団結もない。現場レベルでの異質のヨコ交流に欠ける。情報社会では致命的弱点。日本が情報化に立ち遅れた構造的要因だが、弱点を認識し、日本の特性を活かすよう、大きく意識革命が進めば弱点をカバーし、立ち直ることも可能。制度や組織が制度疲労を起こしている現在、個人レベル、現場レベルから立ち上がるほかない。ハロウインを日本の祭りのように楽しむような異文化吸収力、そのエネルギーを前向きに評価し活用すれば個と連の力が日本を変える。制度疲労の組織ではなく。

3 情報生産の仕組み

(1) ハード

#ニュー・ルーム アイディア創発型会議室 IT・ICT 活用 (大日本印刷など)

#ニュー・オフィス 交流スペース、IT・ICT、ゆとり、安らぎ、みどり、運動 (日経ニューオフィス賞) (BMW・ミュンヘン・プロジェクトハウス)

#複合施設 シェア・オフィス、ベンチャー支援、ショールーム・・・(グラン・フロント大阪)

#ニュー・シティ 知的生産性の高い街 多様な情報の受信・蓄積、創造・発

信 ビジターセンター、鉄道駅・道の駅複合化、図書館多機能化 (NHK・TV)、
ミュンヘン工科大学アベニュー、シリコンバレー ニュー・オフィス発想を街
スケールへ拡大 (インテリジェント・シティ) (タウン) (ヴィレッジ)

ICT ネット

都市情報システム 安全 (防災、防犯) 安心 (福祉、医療) 便利 (交通、
買い物) 快適 (環境、レジャー) 経済 (エネルギー) 創造 (ビッグデータ、
クラウド、クラウドソーシング)

対外ネットワーク・システム 各種インターネット・システム

たまり場 マンション中庭、図書館カフェ、路上カフェ・・・

サード・プレイス (家庭でも職場でもない第3の場) ニュー・カフェ、
コワーキング・プレイス

クリエイティブ・コミュニティ (カナダ都市経営学者リチャード・フロリダ)

クリエイティブ・クラス (多様なライフスタイル) 街のアイデンティティ
とクリエイティビティ

* ミュンヘン BMW プロジェクト・ハウス、ミュンヘン工科大学、シリコンバ
レー、いずれもハードだけでなくソフトもシステムも「異質の交流」と「相
互のつながり」に配慮。

(2) ソフト

コミュニティ 開放性、民主主義、自主性・・・

自治会ごとに活性化活動を競う。町並み・村並み・山並み保存、地域アイデ
ンティティの発掘など (内子町)

ネットワーク 多様性、柔軟性・・・

リアルな連携 リアル開発会議 (日経 BP 社)・・・

ネットでの連携 クラウド・ソーシング・・・

ニュー・ミーティング 自由で未来型の会議

フューチャー・セッション・・・ (岐阜大学など各大学で地域の指導)

発想法 (アブダクション) KJ 法・・・ (日経アソシエ)

(3) システム

知の拠点 大学、図書館の変身 地域ニーズへの対応 カフェ、たまり場 学
習、検索、指導、相談、・・・

工業社会型システムの総点検 不要規制の撤廃 (アベノミクス)

戦略特区 地域の自由度

市民分権 NPO など 北欧モデル 自由度 既存権益から一線を画す。

トップダウンからボトムアップへ 現場主義、地域の自発性

情報社会型への転換

若者、女性、外国人の登用・・・ダイバーシティ

IT・ICT の普及と活用 情報リテラシー（常識）の向上

国内・国外交流の画期的な拡大 農水省交付金（農村振興局）都市農村交流・対流事業など 外国観光客の増大テンポが倍増を。

「地域等交流促進機構」（仮称）による地域、組織、企業など相互の交流を仲介する機関の設置が望まれる。国内・国外コンベンションの誘致なども。

人材の確保 統合窓口 ニーズの把握と受け皿の用意、情報パイプ連携。

東京など大都会の若者（移住希望38%）の導入 移住の条件を調査。

大企業をスピンアウトした専門家や定年退職の熟練者の誘致

「第2生産性向上運動」の展開

第2次大戦後、生産性向上運動で米国のシステムを取り入れ、日本は工業化で大きな成果を収めた。時代はモノの生産から情報の生産へ転換。情報の生産性、知的生産性の向上が最大の課題。またもや米国に立ち後れたが、日本の特性を活かせば再び米国を追い越すことも夢ではない。カイゼンではダメ、一大イノベーションの展開。問題は意識改革。大戦後のような大幅な世代交替も必要か。システムの入替えも。先ずは地方からカイカクを始動すること。

4 情場モデルの開設 地域交流拠点 「Iフロント」（インターチェンジ・フロント） 現在、バラバラに実践されている各種情場機能を連結する拠点「ミニ・シリコンバレー」（小さいけど「知の拠点」）を条件の整った地方都市から順次配置して行く。東京の若者（20～30代）の4割が地方移住を望んでいる。

(1) 人材インフラの構築 地域の若者、女性、よそ者たちの「活性化グループ」の結成 地域再生がテーマ 勉強会の開催 地域リーダーの養成

地域内交流を調整する「シティ（エリア）・マネジャー」の配置

地元大学との提携 愛媛大学、松山大学 伝統芸能など（内子町）

地元関係団体との連携 伊予銀行と協定（内子町）

山梨中央銀行「やまなし暮らし」支援（山梨県）

「甲斐適生活応援隊」（企業、団体）（山梨県）

地域内外ネットワークの展開

ビジターセンター、ドイツ・ローテンブルグ市、沖縄・宜野座村、東京

都豊島区（内子町）

「企業ファーム」耕作放棄地開墾事業（山梨県北杜市と三菱地所、博報堂、講談社、東京都目黒区教育委員会）（福島県会津坂下町とUR）

企業の「SATOYAMA Style」里山ツーリズム構想（JTB 法人東京）

都市農村交流・対流事業交付金（農水省農村振興局）、農都交流型プログラム」企業の従業員研修と農村観光（山形県飯豊町・JTB 法人東京）

「南アルプス・クラインガルテン」（会員制滞在型市民農園）（山梨県南アルプス市）

「南アルプス・完熟農園」（農業の6次化拠点）（南アルプス市）

「やまなし暮らし支援センター」「甲斐田舎暮らしネットワーク事務局」山梨県）

（2）拠点づくり

#情報産業など先行進出企業と協議 IT・ICT 装備でプロジェクトの核づくり。

#遊休施設の活用・地域交流拠点の構築

空きビルなどに地域のニーズに合った情場機能を装備する。

まず、情報産業など先行企業の進出

次に、人材養成 市民講座 情報社会、発想法、IT・ICT、起業など学習

関連して、情報社会向け図書、CD等の「情報ライブラリー」の設置 カフェの併設。各種情報の検索サポート、「情報コンシェルジェ」も。公立図書館や地元大学との連携。

そして、農業の6次産業化など地元産業の知的生産性向上の相談に乗れる専門家の確保 福祉など社会事業も。カイカクでなくカイゼンでもいい。「知恵しほりコンサルタント」（「自分で考える」をサポート）

地域内外の交流ネットワークを支援できる専門家「交流コーディネーター」の育成、確保。特に海外直結は不可欠。

地元産業間交流、市民の工場見学、シリコンバレーなど先進地視察

地域の魅力、個性、アイデンティティの発掘 プロジェクトチーム

「交流文化シリーズ」地域の「宝物」の発掘など JTB（日経新聞）

地場産業間交流、市民の工場見学、シリコンバレーなど先進地視察

未来型会議の進行役・ファシリテーターの育成

シェア・オフィス、コワーキング・プレイスなど IT・ICT の装備 クラウド・ソーシングなどのサポート

参加企業の誘致 民間人材の確保 外国企業も。

移住者の誘致 体験住宅、起業支援（内子町）

「2地域居住」推進（南アルプス市）

人材の募集 「地域おこし協力隊」（内子町）

若者等のボランティア、一時在住、「2地域居住」、移住・・・

情報社会向け健康づくり「元気道場」 特に「うつ病」、認知症など精神疲労等の改善のための運動療法の実践 「健康ライブラリー」の設置 耕作放棄地開墾事業などと連携、郊外で作業療法、スポーツ、レジャーなども。

#相談窓口

IT・ICTの活用 サポート業務

農業、林業、漁業、観光、中小企業の「知恵しぼり」 カイゼン、カイカク
個人起業、ベンチャーの支援 金融、マーケティング、特に海外直結。

ショールーム 新製品など（グランフロント大阪）

#情報社会向け施設・設備・イベント 展示、実践、啓発

（モデル）ニュー・ミーティング、ニュー・オフィス、ニュー・シティ

（参考事例情報）域内交流、対外交流（国内、国外）特に海外直結事例。

5 計画の立案 国、自治体の支援

- (1) 地域の規模や事情の違いで、様々な「地域交流拠点」があり得る。地域にマッチした構想を立てる。市、町、村それぞれに対応。
- (2) 地域の将来を担う若者や子どもたちの将来を考える母親、女性、そして地域外からの外来者や外国人の参加を得て構想を作成する。フューチャーセッションなどファシリテーター誘導で未来型会議を進行する。
- (3) 専門家の意見も聞く。会議方式もあり、ネットでの参加もある。
- (4) 構想案ができれば広く市民の意見を聞く。実行段階で事業が円滑に進む。
- (5) 正式に構想を決めたら、プロジェクトチームを編成して、事業計画を作成する。あら探し（ネガティブ・チェック）でなく、前向き志向（ポジティブ・プッシュ）で明るく楽しい計画とする。
- (6) 計画が国や自治体の支援を必要とすれば、それぞれに協力の要請をする。国には、「地方創生本部」を通じて各省庁に協力要請する。特に、地域の自由度の高い「包括交付金」の交付を要求する。必要なら人材派遣も要請。